



## エモリー大学の1週間



前原 潤

*Hiroshi Maehara*

2004年9月12日から20日まで、アメリカ、アトランタのエモリー大学を訪れた。そこには古い知合いのレドル (V. Rödl) 教授がいる。レドルにはじめて会ったのは1986年の箱根でのグラフ理論国際会議のときである。そのとき、「冬の学校」という会議に招待され、翌年の1月に厳寒のチェコスロバキヤのスルニイ (Srní) での冬の学校に参加した。

### 目 次

エモリー大学の一週間 -----	1	ポスターの修復と幸福の鍵の寄贈について -----	11
米国から沖縄を学ぶ -----	6	JICA研修員へ図書館利用案内を行う -----	11
インターンシップ(就業体験)について -----	10	お知らせ -----	12
法科大学院生へのlexis.com講習会について -----	10		

外気温マイナス20度の中で、ダイヤモンドダストというものを初めて経験した。当時はチェコとスロバキヤは分離してなく、まだ共産圏の頃であった。レドルはブラハ生まれの数学者で、1985年にチェコスロバキヤの最高科学者賞というのを受賞していて、既に有名であった。組合せ論が専門で、ラムゼー理論の大家である。どんな不規則な構造でも十分に大きければ、ある大きさの規則的な部分構造を含むという現象がいろいろな状況で生ずるが、このような現象に関する数学的な理論をラムゼー理論と呼んでいる。

レドルは1988年からアメリカに移り住み、エモリー大学の教授をしている。1990年に、レドルは京都での世界数学会議の招待講演者に選ばれていたのに、その会議の直前に琉球大学に呼んで、数学教室で講演をもらった。会うのはそれ以来である。今回はちょうど教育学部の徳重典英助教授が客員研究員として、レドルのところに行っている最中でもあり、私には好都合であった。

12日(日)に成田を出発し、シカゴ経由でアトランタに行くことにしていた。シカゴ空港で、予約したアトランタ行きの便が欠航になるなどのトラブルがあり、予定より5時間近くも遅れ、アトランタに着いたのは夜の9時頃。宿泊を予約してあったユニバーシティー・インには夜10時過ぎに到着した。

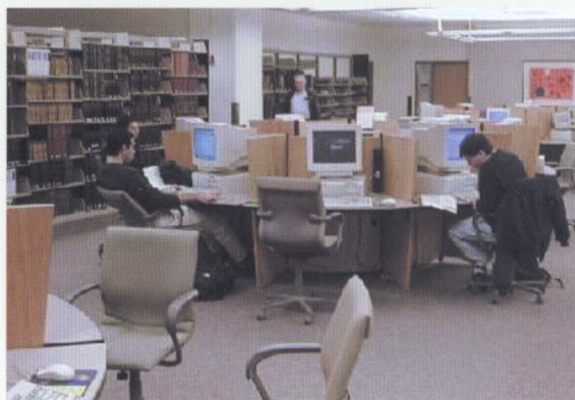
13日(月)、10時半頃エモリー大学の数学・科学センタービルの4階で14年ぶりにレドルに再会した。昔と変わらないようだったが、忙しそうであった。16日の午後4時のセミナーに私の講演を組んであるがそれでよいかと聞き、それで大丈夫だというと、ではそのセミナーの後でビールでも飲みに行こうといい、手がけている仕事に戻っていった。私の研究室も手配しようと言っていたが、徳重さんと同じ研究室を使うから必要

ないと断った。

エモリー大学の数学関係のスタッフは20人たらずで、数学・科学センタービルの4階は数学スタッフと大学院生が専有している。廊下は絨毯が敷かれ、歩いていると、方々から数学の議論をしている声が聞こえてくる。みんな研究に余念がないようであり、辺りには研究をするという雰囲気が漂っていた。

エモリー大学に来る2週間ほど前から考え始めている問題\*)を徳重さんに話し、部屋に訪れてきたブラジルの日系人数学者コハヤカワさんにもその問題を話した。コハヤカワさんは最近レドルと多くの共同研究をしていて、後学期を客員研究員としてエモリー大学に滞在しているようであった。私はしばらく問題を考えたが、疲れてしまったので、早々と大学を引き上げホテルに戻った。

14日(火)も朝から昨日の問題を考えていたら、徳重さんがいいアイデアを思いついて問題が解決し、あとは細かいチェックをするだけになった。そのときはもう十分だと思って、図書館の見学に出かけた。



エモリー大学の図書館は、ウッドルフ(Woodruff)図書館、ビジネス図書館、化学図書館、健康科学センター図書館、法律図書館、数学・科学センター図書館、音楽・メディア図書館、Pitt 神学図書館、Hoke O' Kelly記念図書館からなる。蔵書数は約280万冊で、38000タイトル以上の雑誌や新聞を取っている。日本語の朝日新聞もあった。

中央図書館に相当するウッドルフ図書館に入った。



そこは4階建てのビルと、廊下でつながった10階建てのStack Towerからなり、長い渡り廊下(bridge)でCandler図書館ビルにもつながっている。閉架式の図書館で、図書や資料を探すのに、学内あるいは図書館内のコン



ピュータでEUCLIDという検索システムを用いて、前もって資料の所在を調べておく必要がある。実際、数学の図書のある場所を見てみたが、本は電動式の集密書架に並べられていて、事前に必要な本の配架位置を調べてないと、目指す本を探すことは出来なかった。でも、方々にコンピュータが置かれているからEUCLIDにキーワードを打ち込んで、関連する本やその所在をすぐ調べることができる。それによって、どの図書館の、何

階の、どこの書架にあるかがわかるようになっている。倉庫のような書庫に保管されている図書もあり、その場合は係員がとってきてくれるようだ。図書館利用のためのワークショップも頻繁に開いているらしい。また、図書館は授業のある週日は24時間開館している。

廊下などの広い部分には、初期の活版印刷機などが展示されている。画廊もあり、このときは、Vladimir Viderman: Art from St. Petersburg, Russiaという絵画展をやっていた。閲覧室にはパソコンが数多く配置されているが、さらに、ラップトップのパソコンも貸し出している。1階にはJazzman's coffee shop というのがあり、drip-free cup を買えば、それにコーヒーを入れて図書館に持ち込めるようになっている。長い渡り廊下でつながっているCandler図書館ビルには主に雑誌類や新聞等がある。ここにも多数の閲覧室があり、どれも広々としていて、ソファーなども置かれ、ずいぶん快適そうであった。

最も感心したのは、いろいろな専門領域、たとえば、アフリカ研究、東南アジア研究、ヨーロッパの歴史、ジャーナリズム、音楽、数学、物理、政治学、社会学といったような、合計40もの領域の各々について、研究相談を受けるための専門のライブラリアンが配置されていることだ。これら40人もの専門のライブラリアンのリストはE-mail address も一緒に案内書に載っている。また、年間200人以上の学生を、書架の整理などのためにアルバイトで雇っている。The library is a great place to work! という広告も出ていた。

15日(水)は午前中、「風と共に去りぬ」のマーガレット・ミッチェル博物館に行ってきた。生家の一部を復元して博物館にしたものだ。マーガレット・ミッチェルは49歳の誕生日の直前にタクシーにはねられて、亡くなっている。若い頃の写真を見ると、スカーレット・オハラを思わせるような美人であった。

びっくりしたのは、「OK牧場の決闘」や「荒野の決闘」

などの西部劇でおなじみのドック・ホリデーが、マーガレット・ミッチェルの遠縁のいとこに当たることだ。ドック・ホリデーは西部に旅発つ前、アトランタの近くの町で歯医者をしていて、やはりマーガレットのいとこであるマ



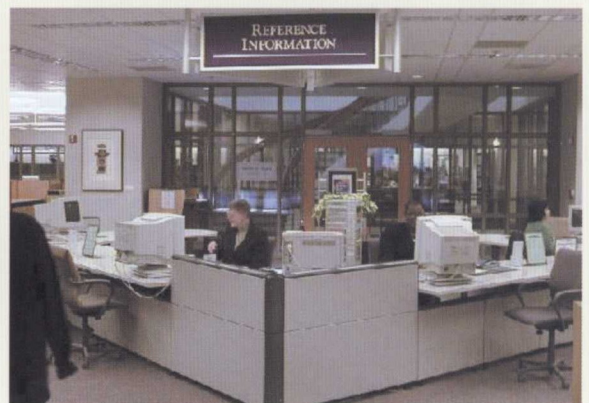
ーサ・ホリデーと恋仲になった。2人は、血縁者同士であるという理由で結婚をあきらめ、マーサは修道院に入り、シスター・メラニーとなる。彼女が、「風と共に去りぬ」のメラニーの人物像となったらしい。

午後から天気が悪くなってきた。ハリケーンのアイバン(Ivan)が近づいて来たのだ。ハリケーンはメキシコ湾からジョージア州の西隣のアラバマ州に上がってきた。アトランタは強風域に入り、雨も降り出し大荒れの天気となった。アトランタに来る1週間前に沖縄で台風にあったばかりだというのに。

16日(木)は朝から大雨で風も強くひどい天気だ。その日、私はセミナーで話をするようになっていたので、仕方なしに大学に出かけた。午前中、徳重さんのアイ

デアで解決したと思った証明をチェックしていたら、間違っていることに気がついた。しかも、間違いは修復できなかった。解決できたらセミナーでその話も追加するつもりだったので、がっかりした。そのあと、レドルが来たから、彼にも問題を話したら、関連する問題を扱った論文のことを思い出し、それを持ってきてくれた。興味深い論文であったが、解決の参考になるヒントは得られなかった。

午後4時からのセミナーには教官と院生合わせて20人くらいの方が聞きに来た。準備してあったOHPシートを用いて、球の配置に関する研究結果を50分ほどかけて話し、セミナーを終えた。5時半頃、まだずいぶん雨が激しかったが、レドルが出かけようといって来



たので、徳重さん、コハヤカワさんの4人で一緒に出た。数学・科学センタービルの前には、レドルの奥さんが車で待っていた。それに乗り込んで、近くのEverybody'sという店に行った。レドルの奥さんに会うのは1987年以来の事で、プラハで泊めてもらったことを思い出し、

子供たちのことなど、いろいろ昔の話しをした。Everybody'sはピザとパスタが専門で、ビールは種類が豊富でおいしかった。ピザを少し食べ過ぎた。

17日(金)の午前中はハリケーンの余波で風は強く天気はまだ悪かった。ホテルのすぐ近くでも大きな木が倒れ、歩道をふさいでいて、遠回りさせられた。大学でも大きな木が2つに裂けて倒れていた。午後2時ごろから徳重さんはレドルと大学院生マークの論文のチェックがあるので、私は昼飯の後、大学構内をぶらぶらし、早めにホテルに帰って寝た。

18日(土)は朝から雲ひとつない青空で、すがすがしい天気となった。朝食前にホテルの界隈を散歩したら、道に栗の実が落ちていた。

栗の実の 車に轢かれ 馬糞かと (M)

午前中は、エモリー大学の敷地内の公園を散歩した。公園には学長の住宅があり、その横には湖がある。遊歩道沿いには高い木が植えられていて真夏でも気持ちよく散歩できそうだ。アトランタは樹木が美しい。タクシーの運転手もそのことを自慢していた。公園を1周するのに1時間近くかかり、昼前になったので大学の食堂に行ったら、レドル、徳重、マークの3人と出会い、一緒に食事をした。彼等は午後論文のチェックを続けると言っていた。私は、大学の博物館にThe New Greek & Roman Galleriesを見に行った。

19日(日)、朝7時にホテルを出てアトランタ空港に向かい、ニューヨーク経由で20日に日本に戻った。私の問題は解決できなかった。

(まえはら ひろし 教育学部・数学教育 教授)

-----  
\*) 辺長2の高次元立方体の各頂点に単位球を配置したとき、立方体の中心を通る超平面は必ず半数以上の球と交わるかという問題。これは、球の族を超平面によってほぼ半数ずつに分けるという問題に関係している。



## 過去は序章

ワシントンD.C.の憲法通りとペンシルベニア通りが交差する場所にナショナル・アーカイブスと呼ばれる国立公文書館がある。観光客が訪れるパルテノン神殿を彷彿とさせる正面入口と、研究者用に開かれた質素な「裏口」とがある(写真1)。

裏口には、左右一對の銅像が置かれているが、その1つにシェークスピアの「The Past is the Prologue to the Present and the Future (過去は現在・未来の序章)」という言葉が刻まれている。公文書館を、歴史的知の遺産と称する場合があるが、私はそれを民主主義の歴史的資源もしくは原石だと考えている。米国の公文書館が、現在のように世界に開かれたものとなるには、幾多の苦難と試練とがあったことが知られている。

1979年の夏以来、断続的ではあるが私は、米国立公文書館(通称NARA)を始め国内外の研究施設・大学図書館等に通り詰めている。その時々により研究テーマは変わるが、今は米国で「沖縄戦と米兵の戦争トラウマ」について

研究・調査・資料収集を行っている。ある意味で私の研究は、外から沖縄を考えるものを中心となっている。その主な理由は、研究テーマに関わる資料が日本側にほとんど存在しないことである。1999年4月、日本にも情報公開法が施行され、行政情報が公開されるようになったが、研究者の希望を満たすだけの資料蓄積が計られるにはまだまだ時間がかかりそうだ。そこで情報公開先進国の米国に学びつつ、外から沖縄を学ぶ意義と役割について考えたい。

## 全米に41カ所の米国立公文書館

米国立公文書館は、本館が置かれているワシントンD.C.以外にも全米21州、41カ所に分館が設置されている。これらの中には、歴代の大統領記念図書館をはじめアラスカ州、ワシントン州、カリフォルニア州等のように太平洋地域の資料に重点を絞った公文書館もある。収蔵された公文書には、①文書(原文資料が中心) ②マイクロフィルム ③地図・建築図面 ④フィルム・ビデオ・音響 ⑤写真 ⑥政府文書・官庁公刊書等が含まれている。



米国立公文書館ワシントンD.C.本館(研究者用入口)(写真1)

沖縄を含む日本関係の記録類のほとんどは、1996年に新設された第二国立公文書館カレッジパーク(メリーランド州)に保存されている。さらに第二公文書館には、第二次世界大戦関係の記録(公文書、作戦記録、映像記録、写真)がほとんど収蔵されており、世界各国から多くの研究者が訪れている。

## 情報自由法は開かれた民主主義

米国立公文書館のもう一つの役割は、民主主義を支える国民に情報を開示し、その公開を保証することにある。米国において、情報開示に対する国民の関心が高まったのは、1946年からのことだ。この年、連邦行政手続法が改正され、情報開示に関わる規定が設けられた。米国では長年にわたり民事訴訟等において自己情報の開示請求が出来たが、法改正により「行政機関の内部情報」の非開示が定められた。これは法の後退であり、国民にとって改悪とも見なされた。ジャーナリズム界でも、政府の秘密主義を批判し、国民の知る権利や表現の自由への挑戦だと異議を唱えた。その後連邦議会や各種審議会の議を経て、1966年に情報自由法(Freedom of Information Act FOIA)が成立したのである。

情報自由法が成立したとはいえ、国民の求める情報公開が一気に進んだわけではなかった。それは、政府や行政機関が収集した情報の一部が、「非公開」扱いされたり、例外規定が設けられるなど、行政側の強い抵抗があったからである。確かに情報公開は、国家機密の公開に該当するだけに、時の大統領により制限を受けることは避けられなかった。

しかし、1993年、クリントン大統領は、「開かれた政府は、説明責任を果たすために不可欠である。情報自由法は開

かれた政府を形成する欠くべからざる構成部分となっている」とする書簡(1993年)を連邦政府機関に送り、この精神が今も生かされている。

## 米国から沖縄を学ぶ

研究者として私の関心の出発は、「占領下米国の沖縄統治」であった。この研究テーマは、1984年度から足かけ6年間続いたが、最も欲しかった資料は「ケネディ新政策」と呼ばれる1960年代初頭の資料群であった。来る日も来る日も公文書館を訪ね、資料の行方を追ったが、容易に資料は見つからなかった。そこで方向を変え、ボストン市在の「ケネディ大統領図書館」に当たりをつけることにした。同図書館が所有する資料群は、ワシントンD.C.の公文書館本館が所有するものと同じであるが、レギュレーション(利用規定)に違いがあり、本館で非公開の資料が、同図書館でいとも容易に入手できたのである。聞いてはいたが、民主主義の国アメリカにおいて、規則はその人の数だけあることを身をもって学んだものだ。

## 日本軍暗号の傍受と解読

これと並行して、米国家安全保障局(NSA)が所有する、戦争と暗号記録(解読を含む)について長年関心を持ち続けていた。この資料群も、米国は簡単には公開しなかった。それは、情報戦と呼ばれる「暗号戦」が、戦後も続き、しかも冷戦時代にあって「暗号」は、敵国の秘密を暴く重要な兵器であったからである。

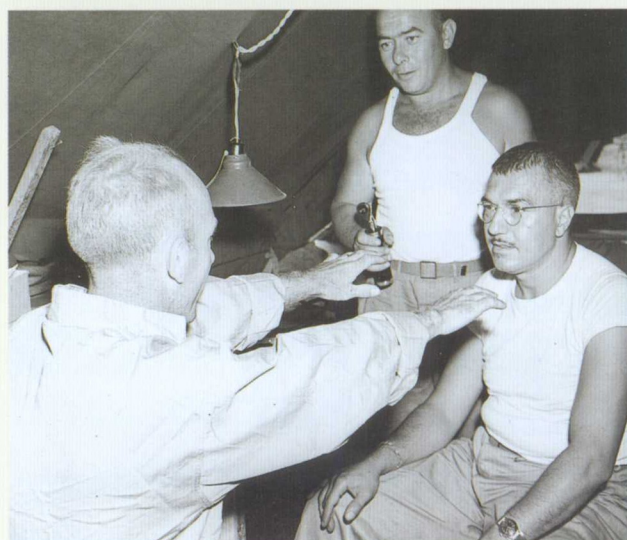
ところが1990年代初頭の「脱冷戦」時代を迎え、NSAは一度に大量の無線通信の傍受・解読文書を公開することに決めた。

これら記録類は1996年と97年にかけて約1,400箱分(約1万ファイル)が公文書館から公開されている。ついに私も、96年11月、念願の沖縄戦暗号関係記録を入手出来た。最大の収穫は、沖縄戦の中心を担った第32軍の暗号関連資料と、それを解読した米軍の報告書を入手できたことである。分析の結果、日本軍暗号情報が完全に解読・暴露されていたことが明らかになった。(写真2)

さて、米軍の暗号研究を通して、心に引っかかっていたことが一つあった。それは、NSA資料の中の日本軍捕虜の尋問調書のことである。捕虜は、沖縄戦で暗号書一切を所持したまま敵軍に下り、すべての機密を暴露したと調書にはある。それは事実か。

1999年3月、一通り暗号関係の分析を終えた春休み、雑誌社からの原稿依頼の件もあり、私はその日本軍兵士に会うことにした。その時84歳になる旧日本軍兵士は、私にではなく最愛の妻(ひと)に話しかけるように重い口を開いた。彼によれば、暗号書を進んで提供した事実はなく、「尋問調書」には虚飾があるとのことだった。彼は、話しの節々で部下の死を悼み、上官のモラルを叱責し、人間以下だったと自分を責めた。話しの途中で、「これ以上沖縄戦のこ

とを思い出すと死んじゃいますよ」と何度かつぶやいた。戦後半世紀が過ぎた今も、戦争の悪夢にうなされ、突然夜中に飛び起きることもあるという。旧日本軍兵士の戦後を聞き、あらたな課題を与えられてしまった。それは、「トラウマ」と言われる心の傷の問題である。(写真3)



沖縄戦で「戦闘神経症」に罹った兵士の問診を行う軍医(写真3)



日本軍の暗号を解読する米諜報部員(ワシントンD.C.) (写真2)



## 米兵の戦争トラウマ

私は、沖縄戦の研究を通じ、いつも「戦争と心の傷」の問題に触れていた。戦後、沖縄社会にあふれた「戦争フラウ」と呼ばれた人たち、1960年代の旧厚生省調査によれば本土の2倍以上にも及び精神障害者の発生等、「心的外傷後ストレス障害(PTSD)」は、沖縄社会に確実に存在していたのである。日本でも、戦時下に戦争神経症の治療を行っていたことが判明するが、終戦直後、軍の命令により関係記録はほとんど焼き尽くされてしまった。(写真4)。

日本での研究には限界があり、またしても私の公文書館通いが始まった。昨年と今年と、2回にわたり公文書館調査を実施したが、かなりまとまった資料が収集できた。米軍資料から、生身の人間が犯した戦争の断面が見えてくる。悲嘆、失意、絶望が戦場を支配し、勝者である米兵に多数の失語症患者を出している。米兵の戦闘神経症の数は、1万6千人に及んだと言われている。

## 訪ねてほしい公文書館

米国から沖縄を学ぶ手法はいろいろあるが、私の場合は研究テーマにそって公文書館の資料収集を行い、それを読

み、組み立て、論理づけていくことである。

公文書館は、そこでしか得られない資料がほとんどで、ある種の解決を期待される動態学的な研究が中心になる。それに対し大学図書館等は、静態学的な知の集積場であり、先人の知識や知恵に啓発され、自己が形成される場所かもしれない。

沖縄県には、1995年に開館した「沖縄県公文書館」がある。遠くまで足を運ばなくても、近場の公文書館を訪ねれば300年余にわたる過去の琉球-沖縄の歴史を紐解くことができる。一度は訪ねてほしいものだ。

保坂廣志 Hiroshi Hosaka

法文学部人間科学科教授

専門はジャーナリズム論、世論、平和研究

主な著書『争論 沖縄戦』(共著 2003年)

『米国が見たコザ暴動』(監修・翻訳 1999年)



大量に焼却された日本軍機密文書(1945年9月25日 長崎県佐世保航空隊基地)(写真4)

## インターンシップ (就業体験) について

### 中学生・高校生の図書館就業体験

附属図書館では、7月7日に就業体験の真志喜中学の女子生徒3名を受入れ、図書館業務を体験してもらいました。その内容は①資料の整理業務②カウンター業務③検索(夏休みの宿題のテーマの資料を自分で検索して図書を探し返却する)等です。実習が終わってからの図書館職員との懇談会では「楽しかった」「思っていたより大変だった」「本を並べるのに沢山あると大変だと思った」などの意見がありました。

7月22日～23日の2日間は普天間高校の生徒4名(男子1名と女子3名)を受入れ2名ずつ二つの班に分け交互に①資料の受入目録装備②資料の整理業務③カウンター業務④検索等を体験してもらいました。最後の図書館職員との懇談会では「本の貸し出しだけでなく、いろんな仕事があったので驚いた」「図書館の仕事は体験する前と後ではギャップがあった」などの意見がありました。

中学生も高校生も最初は緊張した様子でしたがそれぞれの仕事に真面目な態度で実習に取り組んでいました。「就業体験」は早い時期に「職業」に関心を持たせるとともに将来の進路を考えるいい機会ですし、この体験を将来の仕事の選択に生かして欲しいと思います。



## 法科大学院生への lexis.com 講習会について

### 法科大学院向けの情報収集ツールを紹介

附属図書館では7月15日(木)と16日(金)の2日間、lexis.comの講習会を開催しました。

lexis.comは附属図書館が導入しているデータベースの一つで、世界各国の法令・判例、ニュース、企業情報、特許・知的財産などの情報を収録しています。

今回は法科大学院向けの講習会ということもありアメリカ法関連の情報収集が中心となりました。また、講師のデモンストレーションにあわせながら参加者も実際にパソコンを操作するため、実践的でも容易に検索方法が習得できました。

今年度から設置された法科大学院の教官や学生を中心に多数の参加者があり、最後の質疑応答でも普段聞くことのできない事例や専門分野の質問が多数あげられ、有意義な講習会を行うことができました。



## ポスターの修復と 幸福の鍵の 寄贈について

8月4日安次富長昭名誉教授より、館長室において「幸福の鍵」の寄贈がありました。同名誉教授には、当時の募金をつるために作成したポスターの劣化にともない原本の修復についてのお願いをしていますが、その修復が終わり、ポスターの引渡しと併せて「幸福の鍵」についても寄贈を受けました。

「幸福の鍵」は、1952年初代学長の志喜屋孝信氏の退官を機にその業績を記念するため、新図書館の建設を計画した琉球大学ファウンデーションが開学記念文庫基金をもとに1954年4月1日、琉米親善委員会の協力で1鍵1ドル景品付き宝くじ22万本を発行、1位は賞金1万ドル（120万8円）で2位から4位まで外国の高級車が当たるというセンセーショナルな宝くじで人々の関心を引き起こしました。当時の地元の新聞（沖縄タイムス、琉球新報1954年4月）によると琉大の職員、学生も街頭に繰り出し道行く人々に志喜屋記念図書館の建設に協力しましょうと



呼び掛け「幸運の鍵」「琉米親善の鍵」と称した宝くじを売り出したこと等が載っています。

ポスターは安次富長昭先生（当時美術の学生）のデザインで、「幸福の鍵」が描かれており、現在図書館に保管されています。



## JICA研修員へ 図書館利用 案内を行う

### 外国からの研修員のための図書館活用法

附属図書館では9月27日（月）と10月4日（月）の二日間、学術国際部国際企画課からの依頼をうけ、JICA研修員への図書館利用案内を行いました。

初日は「森林土壌研修コース」の6名、次の週は「教育者のためのIT研修コース」の12名で、インドやイラン、ラオスなどからの研修員です。館内を歩きながら資料を紹介する館内ツアーの他に、研修員の専門分野にあった検索システムを紹介し、パソコンを使用してデモンストレーションや実習を行いました。

研修員からは本の貸出方法や学外からの検索システム利用法など、その他図書館を活用するための質問がありました。

琉大での研修が充実したものとなるよう、図書館では外国からの研修員や留学生向けに、館内ツアーや各種データベース講習、電子ジャーナル講習など多彩なプログラムを用意しています。



# お知らせ

## 開館カレンダー

### ●本館

12月(2004年)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月(2005年)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月(2005年)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月(2005年)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

### ●医分館

12月(2004年)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月(2005年)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月(2005年)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月(2005年)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

開館時間: 【黒】8:30~22:00 【緑】13:00~20:00(分館は13:00~18:00) 【青】8:30~17:00 【赤】休館  
閉館日:

### 本館だより

<第246回附属図書館運営委員会録>

平成16年7月13日

#### ○協議事項

- 1.平成15年度附属図書館決算(案)について
- 2.平成16年度附属図書館予算(案)について
- 3.附属図書館規則及び規程改正について
- 4.電子ジャーナルの維持について(継続)

#### ○報告事項

- 1.委員会報告  
(1)資料選定委員会
- 2.学内報告事項  
(1)中期目標・中期計画・年度計画について  
(2)平成16年度重点化経費要求について  
(3)平成16年度概算要求について  
(4)仲宗根政善画像DB公開について  
(5)日本・EUフレンドシップウィーク、EU資料展開催について  
(6)研究開発事項について  
(7)第51回国立大学図書館協会総会について  
(8)オープンキャンパスに伴う開館時間の延長について

<第247回附属図書館運営委員会録>

平成16年9月30日

#### ○協議事項

- 1.琉球大学における学術情報基盤の整備について

#### ○報告事項

- 1.琉球大学雑誌購読状況について
- 2.電子図書館機能検討委員会について

### 医分館だより

<第53回医学部分館運営委員会録>

平成16年8月11日

#### ○協議事項

- 1.琉球大学附属図書館医学部分館運営委員会規定の改正について
- 2.平成16年度図書館備付け学生用図書を選択について
- 3.コアジャーナルの購読形態について

<第54回医学部分館運営委員会録>

平成16年12月22日

#### ○協議事項

- 1.臨床支援ツールUpToDateの導入について
- 2.基盤雑誌について

#### ○報告事項

- 1.キャレルの照明取替え
- 2.利用者用端末機の取替え
- 3.照明器具取替え工事
- 4.1階集密書架設備工事
- 5.自動ドア設置工事

### ■編集後記

図書館では、できるだけ情報の提供がスムーズに行えるように、環境の整備に努めています。今回、情報ラウンジの利用者用パソコンを更新しました。以前に比べより動作が速く、USBメモリの使用も可能になっています。どうぞ、ご利用ください。